



一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会 (PVM)

支援の「空白地帯」で、命をつなぐ唯一の草の根NGO

2026・2027年度重点活動

今日を生きることすら困難な場で
善く生き抜き、未来を照らす人を育む。

— モザンビーク北部 6年連続・寺子屋キッズ死亡ゼロ —



モザンビークの
いのちをつなぐ会
PVM Ponte para Viver em Moçambique

MAY / 2026

生きるのに一番必要なもの、水。
水汲みは子どもたちの大切な日課です。

子どもの栄養不良 72%

(モザンビーク全国・WFP2025年)

*カーボデルガド州はもっと深刻

5歳未満の発育阻害 44.5%

(カーボデルガド州・2022年)

成人の識字不能率 61%

(カーボデルガド州・INE2022年) 全国最高

国際支援が届く草の根NGO ゼロ

ここに、いのちと不条理がある。

スラムのナティティ地区の中心
モザンビークのいのちをつなぐ会の
事務所前で遊ぶ子どもたち

日本も参入する巨大天然ガス開発。
その恩恵から、住民は取り残される。
もたらされるのは、紛争と避難だけだ。



寺子屋メンバー 100名

寺子屋キッズ 350名

(これまで1,000名を超える子どもたちが通所)

カバーエリア 約11万人

(スラム地区・Natite、Ingonani、Cariaco地区)

活動継続 14年目

だからこそ、私たちは14年間、ここにいる。



**住民と共に、生き抜き、生き貫き、いのちをつなぎあう。
それが、モザンビークのいのちをつなぐ会です。**

寺子屋キッズ

死亡ゼロ ——— 6年連続



役割と活動エリア

支援は、届かない。だから、ここでやる。

モザンビークの人間開発指数は193カ国中182位（2025年UNDP）。この最貧国の中でも、最貧困の地に私たちはいます。国連や先進国からの支援資金はモザンビークにも入ってきますが、その多くは天然ガス開発の保護に向かい、スラムの住民には届かない。支援の光の当たらないエリアでこそ、草の根活動を！ だから私たちは、このスラムで活動を続けます。

スピードより、発酵感覚。

住民一人ひとりの状況を把握し、机上の空論スピード主義ではなく、発酵感覚でじっくり。現地メンバー100名と共に、ほんとうに必要なとされる活動を住民と共に形にしてきた14年間。

人件費で、命を救う。

代表とディレクターの人件費は、助成金では賄えない住民の薬代・手術代・困っている人への手渡し、子どもたちの進学費用に消えていく。実質、無給。そこに、救える命があるのだから。

モザンビーク北部カーボデルガド州最大のスラム地区の真ん中に事務所を構えて活動継続中。
イスラム過激派の攻撃が激化する中、草の根活動を続けている団体は、
モザンビークのいのちをつなぐ会(PVM)、ただひとつです。

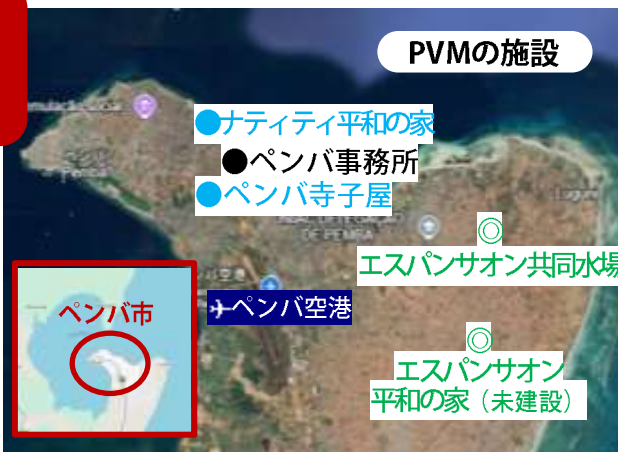


活動地モザンビーク北部 **カーボデルガド州**
日本も参入する巨大天然ガス開発を背景に
イスラム過激派のテロ紛争が激化



国内避難民 130万人
死者 6,400人超
食糧難 90-110万人

生産される天然ガスの**約3割**は、
日本の会社が引き取る予定。



【カーボデルガド州・ペンバ】

- 事務所 (2013年～)
- ペンバ寺子屋 (2014年～)
- ナティティ平和の家 (2021年～)
- ◎エспанサオン平和の家 (2027年から着手)
- ◎エспанサオン共同水場 (2023年～)

【ナンプラ州・ナンプラ】

- ナンプラ寺子屋 (2021年～)

●面積: 79.9万平方キロメートル(日本の約2.1倍) ●人口: 約3,563万人(日本の約1/4) ●首都: マプト(人口約120万人) ●民族: マクワ、マコンデ、ロムウェなど43部族 ●言語: ポルトガル語と各民族の言語(北部はマクワ語、マコンデ語等) ●宗教: キリスト教(67%)、イスラム教(18%)、原始宗教 ●略歴: 1964年～1974年(停戦)モザンビーク独立戦争 1975年ポルトガルから独立 1977年～1992年(停戦)モザンビーク内戦 **2017年～現在、モザンビーク北部でイスラム過激派による攻撃続発** ◆平均寿命: 59歳(2022年) ◆出生率: 4.69人(2024年) ◆5歳未満の乳幼児死亡率: 6%(全国) 10-15%(ペンバ市スラムの推定値) ◆5歳未満の発育阻害率(低身長): 44.5%(カーボデルガド州2022年) ◆15歳-49歳のHIV感染率: 11.5%(2022年) ◆1人当たりGDP: 618USD(2023年)

【モザンビーク概要】 470年間 に渡る植民地化の愚民化政策の影響が残る



活動内容

ビジョン:「尊厳と調和ある世界」

【環境共生活動】

地域美化と緑化の推進、
持続可能な資源利用、
環境教育ワークショップの実施

2. 未来と自立を創造する活動
(生きる力の育成)

【経済循環活動】

「小さな商いプロジェクト」
地域内雇用を創出し、支援と経済の
循環モデルを創造する
「小さな商いプロジェクト」の展開

支援の光の届かぬ場所で、
14年目の光となる!!

【教育活動】

「寺子屋」
スラムと紛争避難民の子どもたち
350名が通所する「寺子屋」
の運営 (2箇所)、配食支援

【技能訓練活動】

「寺子屋工房」
職業訓練の場「寺子屋工房」での
溶接・メカニック等の
専門技能習得支援

【保健衛生・救命活動】

水環境整備 (WASH)、
感染症・若年妊娠の予防啓発、
24時間体制の救命搬送支援

【居住・保護活動】

「平和の家」
紛争・自然災害被災者のための
避難施設「平和の家」の運営

【日本での活動】

国際相互理解推進
講義公演・
ワークショップ、
里山保全

1. 命と学びを守る活動 (命の安全保障)

活動の礎: 住民との強固な信頼に基づくボトムアップ型支援
「真に必要とされる活動を住民と共に形にする」という理念のもと、現地メンバー100人と持続可能な活動に注力。

スローガンは「**小さいけれど、チカラ持ち!**」 スラム地区の100名のメンバーとともに、
社会支援のジレンマをおこさない、実効力ある**直接活動**を、地道かつ確実に遂行する**現地唯一の草の根NGO**です。



教育活動：寺子屋

3つの事実

読めない契約書に、
生まれて初めてサインをした。
そして土地を失った。

この事実が、寺子屋を開設したきっかけです。
グローバル資本主義の波は高まるいっぽう。
「文字ぐらい読めるようにしたい」「学校に行きたい」
その思いを叶えるのが、寺子屋。自分たちの未来を
子どもたちの未来を守る術になる大切な場所です。

- 1 スラムの子どもの6割が学校に通えなかった。
制服も、筆記用具も、サンダルも買えない。
- 2 今では就学年齢の子どもは全員、学校に通っている。
- 3 出生証明書がない子どもが多数。IDカードも作れない。
寺子屋で出生証明書も取得している。

無教育の連鎖を断ち切り、年長者から年少者へ**学びの循環を創造。**
州最大のスラム、ペンバ・ナティティ地区に2014年**ペンバ寺子屋**を建設。





配食・公衆衛生活動

コレラ

マラリア

結核

はしか

HIV

出血性
結膜炎

腸チフス

エムポックス
(サル痘)

子どもの15%が1日1食以下

スラムの子どもの15%が、1日1食以下で生きている。
寺子屋のごはんが無ければ、ゴミをあさり、売春に走る子もいる。

朝と晩の配食

<配食の内容>

- 毎朝：パン200~400個
- 毎夕：豆シチュー、
欠食児童約50名
- スラムのママさんへの
食材配布も実施
- 毎月イベント食実施



毎日のキレイ習慣

<公衆衛生の内容>

- 歯磨き・手洗い・爪切り
洗濯・バリカン・蚊帳
- コレラ・マラリア・HIV予防、
若年妊娠予防
- 家庭への石けん・洗剤配布
- 手作り衛生用品ワークショップ



6年連続、子どもの死亡ゼロ! を目指し、配食と公衆衛生活動を続けていきます。



24時間救命・寺子屋ファーストエイドステーション

病人も死人も棺桶も 運ぶのは人の手。 救える命の数と質を高める。

ピロリ菌感染率、モザンビークで最大94.5%。不衛生な水で子どものうちに感染し、高塩分食・カビ毒食・アルコール・ドラッグと重なって、20~40代の若年ガン・重篤疾患が多発する。昨年だけで、身近な10名が亡くなった。

スラムに救急車は、ない。

——それでも、誰かが倒れば、寺子屋に駆け込んでくる。

24時間、365日。寺子屋の車(SUV)が、スラムの唯一の救急車だ。

月10件、年間120件の搬送が、

中古トラック一台あれば、その何倍もの人を救う力となる。

— **中古トラックが必要!**



感染症や重篤な疾病が蔓延する
スラムの衛生・福祉援助の質を高め、
救命率を向上させる。

活動の目的

寺子屋ファーストエイドステーションの機能

1: 応急処置設備・救急対応

- 搬送用トラック
- 運搬用担架
- 応急処置セット
- マラリア簡易検査キット
- 止血帯
- 経口補水塩 など

トラック
必要!



2: 遠隔医療相談

タブレットで日本のドクターに画像やデータを送りアドバイスをもらう。

3: 衛生リーダー

看護師の指導のもと衛生リーダー育成。救命・応急処置の実践啓蒙



4: 食育講習

カビ毒、減塩、減油、栄養バランス、アルコール・ドラッグについて講習。



スラムの課題は複合的かつ深刻

特に稼ぎ手の男性が亡くなることで、家族は即座に教育・栄養支援を失い、貧困の連鎖へ転落している

究極の医療・衛生格差

感染症の常態化・アウトブレイク

特に抵抗力の低い子どもたちの命を脅かしている。

目指せ、6年連続
子どもの死亡ゼロ!

水系感染症の高リスク

コレラや重度の下痢による疾病罹患率が非常に高い。

浅井戸25、深井戸
3基設置。水道敷設

病院の機能不全と不信

検査ができない、診断できない治療ができない。質の低さ。

寺子屋が駆け込み寺
機能を持つ

機材不足の“命の最後の砦”

救急セットや運搬用機材不足。病人、遺体、棺桶など横臥運搬できる中古トラックが必要!

貧困を加速化させる成人男性の重篤な疾病

🦠10歳未満でピロリ菌感染⇒🦠高塩分・低栄養食⇒🦠カビ毒食で免疫低下⇒🦠アルコール・ドラッグ⇒🦠20-40代で胃ガン・肝臓ガン

若年の死亡例増加

昨年だけで当会関係者10名の20-40代男性が死亡。

若年ガンのリスク
ピロリ菌高感染・高塩分・カビ毒食・依存症

モザンビークは「アフラトキシンのホットスポット」。主食のトウモロコシや落花生に含まれるカビ毒が、肝臓ガンの発生率をアメリカの60倍、日本の10倍にする。特に高発地域はカーボデルガド州を含む北部。

*日本はB型・C型肝炎の影響で肝臓ガンが多い



技能訓練活動：寺子屋工房



最貧困・紛争地の若者が 武器ではなく仕事を選ぶ社会を創る。

失業率70%超のスラムで、寺子屋を卒業した若者の多くが日雇い労働か極端な貧困から抜け出せない。将来の展望を失った若者が、武装グループの標的になっている。ドラッグの蔓延も加速している。ごはんを食べさせ、命を守るだけでは足りない段階に来た。だから「寺子屋工房」から仕事を作る。

1st: 初期プログラムの確立

- 溶接
- 裁縫
- ベーシックリテラシー

2nd: 習得技術の拡大

- メカニック
- 製パン
- ミシン導入

3rd: 実践的就労経験創出

- インターン
- 大工
- 応用コース

【寺子屋工房で創るものの具体例】

- ドラム缶オープン（溶接して、製パンに活用）
- 鉄格子（治安悪化でニーズ増加）
- 巾着（コーヒーを入れて日本で販売）
- 蚊帳の修理（マラリア予防）
- 木のチェスト（ネズミがプラスチックを食い破るため）

**共同受注
組合結成**



一人じゃ無理でも、みんなならできる。 共助起業プロジェクト

道具を共有して、動物を貸しあって、みんなで起業する。



オープン、バイク、台車等の「共有」による商い創出
ニワトリやヤギの「動物」の貸出と、卵や肉での返済

「善意」を強化する「倫理経済圏」





居住・保護活動：平和の家

紛争から逃げてきた。サイクロンで家が壊れた。 行く場所がない。だから、「平和の家」がある。

平和の家を建てた理由は、寺子屋に駆け込んできた一人の女の子からの相談だった。
避難テントで、支援のかわりに性的暴行を受け、妊娠した。行く場所がなかった。
ペンバに流入した避難民は8~20万人。郊外の避難テントから逃げ、寺子屋に駆け込む人が増えている。30人以上で暮らす家もある。
私たちのスラム地区には支援が入ってこない。

スラムの中心の避難施設。
深井戸は近所の住民100世帯が活用。

【ナティティ平和の家】

- 2021年~
- 部屋数：7部屋
- 年間居住人数：約140名
- 深井戸利用世帯：100世帯
- 敷地面積：20mx13m



住居・食料・衣料・浄水を提供。
年間2,000名以上が利用。

今後は公民館機能も持たせ
「自由創造の場」を目指す。

土地はある。外壁は半分できた。
あとは建屋の資金だけ！

【エスパンサオン平和の家】

- 2027年~予定
- 部屋数：8部屋
- 年間居住人数：約225名予定
- 深井戸利用世帯：100世帯予定
- 敷地面積：25mx30m

建築予定図



**建屋の資金調達
が必要です！**

避難民がすでに居住。2025年深井戸完成！
あとは、タワー型給水塔が必要！

【エスパンサオン共同水場】

- 2023年~
- 部屋数：7部屋
- 年間居住人数：約200名
- 深井戸利用世帯：100世帯
- 敷地面積：30mx20m



2025年深井戸設置

**あとは給水塔を
設置するのみ！**

円滑に多くの人たちに
給水ができる設備を
整えたい！



目標：3年間でスラムの家50軒を修復

サイクロン緊急支援

2024年12月15日、サイクロン Chidoがペンバを直撃。
当会事務所の屋根が吹き飛び、
寺子屋キッズの家約90軒が損傷。
スラム地区には一切支援が届かない。
日本の1級建築士のサポートを受け、
暴風雨に強い構造で修復中。



修復費用：
5万円~55万円/軒

気候変動の影響をもろ
に受け、豪雨、洪水、
サイクロンが急増！

現在も大雨被害で
さらに支援が必要！



自分たちの水を自分たちで掘る。

業者に頼めば外国人企業が儲かるだけだ。だから、いのちの水も、自分たちで掘る。スラムの職人チームが手で掘る。2週間から1ヶ月かけて、45メートル。技術も、お金も、スラムの中で循環させる。

Next Act



エспанサオン共同水場にタワー型給水塔を設置したい！



手掘り深井戸

井戸掘職人10名チームを2チーム結成。2週間から1ヶ月かけて約45mの深井戸掘削。

*人口密集の町にあるスラムは、汲み取らないポットン便所のため、浅井戸では地下水が汚染されている。



タワー型給水塔

敷地内に設置した給水塔から路地まで配水管をのばし、路地から住民が自由に、水汲みができるようにしています。



浅井戸25基設置

干上がった川底を掘ってすべての飲水・生活用水を確保する農村地区。動物と共用する水場は衛生状況が最悪。



トイレの整備

トイレ自体がない農村でピットイントイレを設置。寺子屋には2024年に水洗トイレとシャワーを設置。温水も有り。



手作り浄水器

コレラ菌や大腸菌、胃がんの原因となるピロリ菌、原虫や濁りを除去するセラミックフィルターと、バケツを組み合わせた手作り浄水器のワークショップと配布。



環境共生活動



待望のバナナの栽培！
栄養満点のバナナは病気の時の
救いの食べ物にもなります。



2023年に試し植えた
バナナが大きな実を付けました。

5年間移植したモリンガとグアバも
しっかり育って町を美しく彩っています。

食べられる緑化

植えれば、食べられる。 そして、緑が蘇る。

貧困地で「環境のために」と言っても、住民は動かない。
今日食べるものがない人に、
未来の地球の話をして共感されない。
だから私たちは、食べられる植物を植える。
腹が満たされるから、住民が喜んで動く。
貧困と環境問題を、同時に解決する「食べられる緑化」。

Future

モリンガやマルラを栽培・搾油し、
「小さな商い」につなげる。

貧しければ「今日」のことしか考えられない。「未来」を創る環境問題を貧困問題との両立で解決する。

環境美化・ワークショップ

美しい故郷の価値を、 自分たちで守る。

廃プラが海に流れ込む。路地にゴミが積み上がる。開発が進むにつれ、産業廃棄物まで流れ込むようになった。
学校に環境教育はない。文句を言っても何も変わらない。
だから自分たちで、自分たちの町をきれいにする。子どもたちに、地球のことを教える。
美化委員33名が路地とビーチを清掃し、子どもたちが廃プラでものを作り、海を学ぶ。
美しい故郷。それは住民の誇り。誇りは、子どもたちの故郷を愛し守るチカラを育む。



第9回ベンバ青年隊による美化活動。
女性を半数以上起用しています。



6月1日子どもの日は環境保全ビーチワークショップ。
200名で故郷の自然の素晴らしさと変化を学びます。



廃プラを有効利用！
寺子屋でのリサイクル工作。



経済循環活動：小さな商いプロジェクト

支援が必要なエリアでも、支援が集まらない。
だから、自分たちで稼ぐ。
それが「小さな商いプロジェクト」。

理由は三つある。

- 【政治の問題】天然ガス開発が紛争の原因のひとつとなっているこの地域で、**国際支援の多くはガス開発の保護**に向かう。住民支援は後回しだ。
- 【治安の問題】国際支援の資金は、末端の草の根NGOには落ちてこない。公的機関の担当者が直接視察しにくいエリアでは、さらに**公的資金は届かない**。スラムで活動していることが、むしろハンデになる。
- 【認知経済の問題】知られているところには、さらにお金が集まる。
知名度の低い現地活動を優先し、広報が二の次である当会には、**寄付が届きにくい**。

14年間、本末転倒せず、この構造と戦ってきた。そして出した答えが、自分たちで稼ぐことだ。
住民が必要とする事業を住民と一緒に興し、スラムの経済を回し、収益を子どもたちの支援に活かす。
助成金がなくても、寺子屋活動を続けられる団体になる。あと10年で。

現在ミニバス2台運行中。次は収益性の高いレンタカー事業でパン代を創りたい！



小さな商い⇒支援
経済と支援の循環

小さな商いプロジェクト

現在稼働中の商い

ミニバス2台



次に稼働したい商い

収益単価が高い！

レンタカー (SUV)

若者からのニーズ高い
ネットカフェ

就職等の手続きサポート

コピー・事務サービス

毎日の食に不可欠

製粉・製パン

すでに薬剤師育成・大学進学中！

薬局

大きな商いに続く道
搾油・加工



寺子屋工房や
共助起業PJと連動

共同組合活用





モザンビークのいのちをつなぐ会が実現するコミュニティ開発

Theory of Change

小さな商いが、大きな命を守る。 スラムの経済と支援の循環図。

地政学的背景

最貧困国の、首都から最も離れた最貧困地

当会が地域で唯一の草の根NGO

日本も参入する巨大天然ガス開発

イスラム過激派のテロ紛争勃発

貧困層へ支援届かず 国際支援はガス開発保護に

Structure of Problem to be Solved

Activities that Provide Leverage

Pathways to Problem Solving

《経済低迷》
コミュニティ
経済の流動性低下

《就労能力低下》
低い識字率、
技術がない

《仕事がない》
失業率7割

《進学不可》
授業料払えず

《貧困深刻化》
貧困率57%

《栄養失調》
食糧難、低栄養



貧困層が必要とするサービス・商品を提供

運送業 (レンタカー・バス)

製パン

製粉

インターネットカフェ

食堂・理髪店

薬局

コピー・事務

搾油・加工

《経済改善》
コミュニティ
経済の流動性向上

《仕事を得る》
小さな商いPJ
に参加

《貧困率改善》
未来に希望を
持てる

《知力向上》
進学や職能を
実践できる余裕

《栄養改善》
健康の維持

PJに参加、新事業立ち上げ



利益を社会支援活動に活用する

子どもへの配食

栄養失調の改善

疾病予防

コレラ、HIV、マラリアの予防

被災者支援

崩壊した家屋の再建、食料配布

進学サポート

専門学校、大学への進学

就業・起業サポート

技術習得、起業支援



夢に近づく寺子屋キッズ

夢は、近づくためにある。
果敢に前進する寺子屋キッズ。



幼いころ病弱だった
ミステリオは、政府の
奨学金をゲットして、
ドイツに留学中！



寺子屋も後援している
スラムのサッカーチームから
プロのサッカー選手になった
エルデル。



英語の先生になった
サミトの夢は続く。
画家を目指しています。



モデルの夢に近づくフラビア。
ペンバのミスコンテストの
決勝に進出！



寺子屋料理隊長
でもある
アリサーヤは
薬剤師になるため
大学に進学。



悪ガキ・エディーは、
警備員に。現在、
筋トレに勤しみ
ムキムキです。

寺子屋ディレクター

ミュージシャンとしても大活躍！ 『善く・清く・強く 生きる』 影響力を発揮！

ナジャ



内戦中に生まれたナジャ

平和への思いが強く、またマコンデ族の
「勇気、敬意、文化保護」精神を大切に、
スラムの子どもたち一人ひとりに
愛情を注いでいます。



北九州親善ソング
『Let's go Kitakyushu』



平和のうた
『Axinamwane』



寺子屋キッズの様子や、公演の様子はYoutubeチャンネル **Natite Mozambique** でご覧いただけます



国際相互理解推進活動：音楽を通じた平和・共生・生きるチカラの啓蒙



音楽は、紛争地でも、教室でも、命をつなぐ。

紛争スラムの子どもたちが、ナジャと一緒に歌をつくる。平和への思いを、自分たちの言葉で、音楽に変える。歌うことが、生き抜くチカラになる。

その歌と、現場のリアルが、日本の教室にやってくる。戦争、貧困、助け合って生きるスラムの習慣、呪術、サイクロン…テレビでは絶対に見られない話を、私たちが直接語る。聴いた人それぞれの生きる意味が、キラリと、光りはじめる。

2015年から日本・欧州で600公演以上実施（動員2.4万人）



モザンビークでの音楽教育活動

平和

衛生

環境保全

日本での活動と連動

Peace Grooveライブ&トーク

- ナジャによる音楽と紛争の体験語り。音楽の合唱・合奏も実施。
- 芸術と実体験を融合し、平和と共助文化の価値を伝える。

Nico Ichi国際絵画制作

- 日本とモザンビークの子どもたちが一枚の絵を共同制作。（モザンビーク寺子屋で絵を最初に書き、持ち込み）
- 異文化理解と協働を体験的に学び、共生意識を高める。

VR国際交流体験

- 360度カメラで撮影したモザンビークのスラムの暮らしをVRゴーグルで体験。
- 遠隔地でもリアルな生活世界を共有し、共感を育む。

リズムセッション

- 太鼓やLEDグローブなどを用いて身体の動きとリズムをあわせる。

One World for peace発表

- 参加者自身が「平和とは何か」「生きるとは何か」を一言で表現・共有。
- 主体的に考え、言葉や、絵で、平和を表現するチカラを養う。



里山保全活動：高齢者福祉×生物多様性



赤米の栽培

食と農の再生
収穫物を配食ボランティアへ。食べることで、地域がつながる



だご汁会

交流の場
里山と、連携する作陶アトリエでふれいあいの場づくり

里山再生は、福祉である。

荒れた里山に、獣が下りてくる。畑は草に埋もれ、老いた手は鍬を置いた。かつて地域を支えた里山が今、高齢者の暮らしを脅かしている。でも、逆もまた真実だ。草を刈れば、高齢者が外に出る。畑を耕せば、笑顔と会話が生まれる。ホタルが戻り、ミツバチが戻る。収穫した野菜は、高齢者の食卓へ届く。里山の再生は、環境を守るだけではない。高齢者の健康をつくり、孤立を防ぎ、地域のつながりを取り戻す。それは紛れもなく、福祉の仕事。私たちはアフリカの草の根から学んだ「弱さを補い、強さを生み出すチカラ」で日本の里山を保全する。



生物多様性
次世代へ豊かな自然を。ホタルの保全と、養蜂の復活を目指す

福祉が、ホタルと養蜂を蘇らせる。

健康づくり
外に出て身体を動かす。収穫物を人に役立つ生きがい



キャッサバの栽培



畑の手入れ



竹林整備

獣害対策
畑や住宅へのイノシシや鹿の侵入を防ぎ安全確保





スタッフ紹介

代表理事 榎本 恵 Megumi Enomoto



- ◆ 福岡県北九州市小倉生まれ。ペンバ・ナティティ地区在住。
- ◆ 大学卒業後、広告代理店でプランナーとして勤務。
- ◆ 2000年、起業・事業拡大支援を行う Planning MAY を開業。主に環境・農業・通販・教育系企業のビジネスサポートを手がける。
- ◆ 2012年、日系企業のモザンビーク進出をきっかけに、初めてアフリカの地を踏む。半年間、新規事業開発業務を行う。
- ◆ それまで後進国の開発地区で目の当たりにした、「取り残された貧困層の問題」、「先進国の開発論理と後進国の貧困層のニーズのジレンマ」を少しでも解消すべく、2013年4月『NGOモザンビークのいのちをつなぐ会』を設立。2018年12月、一般社団法人化。



モザンビーク・ディレクター ナジャ Nadja (マコンデ民族)

- ◆ 1987年カーボデルガド州ムエダ生まれ。4歳の時に内戦の戦火を逃れ、マコンデ民族の故郷ムエダからペンバへ移住。東アフリカで名を馳せたミュージシャンの叔父・ナングンドに引き取られ、18歳の時に自分のバンドを結成。
- ◆ 叔父に倣い、音楽を通じた社会貢献活動を続ける。アフリカ圏内の大統領などの要人の会合やチャリティーGALAでの演奏機会が増え、国民的ミュージシャンに。
- ◆ 2013年モザンビークのいのちをつなぐ会の設立時から活動に参加。
- ◆ 2015年から日本や欧州でも公演を行う。
- ◆ 2019年ペンバ青年共同組合設立。

都合良いことでなく、善きことを選ぶ。
正しさを押しつけるのでなく、
まだ見ぬ可能性を、一緒に開くために。
私たちは、挑戦し続けます。

代表 榎本 恵 より

**メンバーは、スラムのママさん、職人
青年有志など総勢100名！！**

サブディレクター
ラモス



元・寺子屋キッズの
真面目さが評価され
2026年より就任。

サブディレクター
カシアーン



警察署勤務をしながら
ナジャの右腕代行！

会計
ニーノ



大学で会計学を
学び会計士の勉強中。

安全管理
ジョルダン



紛争地区の
安全管理のプロ！

衛生・調理
アリサーヤ



寺子屋建設前から
事務所で子どもたちに
勉強を教えていた。

衛生・調理
エスタ



病院勤務の
頼れるママ。

音楽スタジオ
オズバルド



2度日本に来日。
音楽スタジオ主宰。

寺子屋施設管理
タニム



寺子屋の古株の
誠実な事務員。



主な表彰とメディア

文部科学大臣賞

様々な分野で顕著な活躍
或いは成果を挙げた個人
又は団体に対し、文部科学
大臣の名により授与する賞。

文部科学省
2024年3月受賞



当会国内調整員
水淵と代表の榎本、
国内部門受賞の
JAMネットワーク。

第7回 SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞

SDGsの17の分野で活動し、めざましい功績を残した
個人・団体を支援するために贈られる賞。困難なエリア
での教育活動の継続を評価され、教育賞を受賞。

公益財団法人岩佐教育文化財団
2026年3月受賞



第60回 社会貢献者表彰

社会と人々の安寧と幸福のために尽くし、
顕著な功績を挙げながらも報われる機会の
少なかった方々を表彰し、日本財団賞を
贈るもの。財団の会長は安倍昭恵さん。
公益財団法人社会貢献支援財団 (FESCO)

2023年11月受賞
財団会長の安倍昭恵さんと
当会代表榎本、寺子屋ディ
レクターのナジャ。



第1回 風に立つライオンオブ・ザ・イヤー

日本国内外で命や平和を守るために
献身的に活動している個人・団体を
表彰。財団設立者のさだまさしさん
の楽曲で、困難があっても強く、
人の命を助けたい、という生き方を
意味する「風に立つライオン」。
そのモデルとなった医師・柴田紘一
郎氏を冠し、海外で活動する個人・
団体を表彰する「柴田紘一郎賞」を
受賞。第1回の表彰です。

公益財団法人風に立つライオン基金
2023年11月受賞



第27回 地球倫理推進賞

活動が営利を目的とせず、5年以上継続し
教育・文化・医療・環境・地域開発などの
分野において、地球倫理の推進に貢献して
いる団体を国内・海外各1団体表彰。

一般社団法人倫理研究所
2024年3月受賞



風に立つライオン基金設立者のさだまさしさんと
当会代表榎本、寺子屋ディレクター・ナジャ。

NHK BS ナジャ <日本語>



『平和を願い歌う / ナジャ』
A Melodic Wish for Peace / Nadja

NHK
番組放送

NHK WORLD 榎本恵 <英語>



『教育を通じ貧困の連鎖を断ち切る / 榎本恵』
Breaking the Poverty Cycle Through Education:
Enomoto Megumi / CEO, Bridge for Lives in Mozambique



Obrigado!

目指せ、ご支援の輪100人!
国や国際機関の支援が難しいエリアこそ
一人ひとりのご協力が必要です。

銀行振込でのご寄付

口座名義は全て：一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会

三井住友銀行 天神町支店：717 (普通)1920099

楽天銀行 第三営業支店：253 (普通)7270104

ゆうちょ銀行 ゆうちょ銀行からの振込：記号番号：01700-8-174440

他行からの振込：一七九(179)店 (当座)174440

※銀行振込後、ご寄付者の管理を正確に行うため、enomegu@gmail.com までメールを頂けませんと助かります。

【活動直結】当会ホームページでのご寄付

最も手数料が安く、活動に直結! 単発でも月々でも対応します。

単発も月々も、ダイレクトに、当会の活動を応援!

**寺子屋マンスリーサポーター
& 単発でのご支援**

<https://www.tsunagukai.com/information/donation>



一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会 (PVM)

e-mail enomegu@gmail.com / may@tsunagukai.com

【日本事務所】〒800-0233 福岡県北九州市小倉南区朽網西 3-12-6 Tel&Fax: 093-472-1444

【モザンビーク事務所】 Rua sem Saida, Bairro de Natite, Pemba, Cabo Delgado, Mozambique
Tel: +258-87-1342265

<http://tsunagukai.com>



PayPay (ペイペイ)
スマホひとつで簡単!



PayPal (ペイパル)
海外からのご寄付にも便利。
paypal.me/terakoya



寄付サイトからのご寄付



【マンスリー】 GoodMorning

クラウドファンディング・CAMPFIRE (キャンプファイヤー)
の中の、社会問題と向き合う人向けのご寄付です。



【単発・継続】 Syncable

公益活動を行う非営利団体のための寄付プラットフォーム・Syncable (シンカブル) を通じたご寄付。



ホームページ



Facebook



MOZAMBIQUE_PVM

Instagram